

みんなが笑っていてほしい

長 谷川義史さん(1961年大阪生まれ)の絵本は、自身の家族や担任の先生など実在の人々が登場します。

『おかあちゃんがつくったる』のモデルは長谷川さんの母親です。長谷川さんは幼い頃に父親を病で亡くしますが、母親は懸命に育ってくれました。ある日、学校から父親参観のお知らせが。おかあちゃんは得意の洋裁で応えますが、子ども心にはありがたくも恥ずかしくて…。母親のおおらかな愛が胸に迫ります。

『おおにしせんせい』は長谷川さんの絵の原点です。小学校5、6年の時の担任でした。図画工作の授業で、「ぼく」は廊下を描き始めますが、先生の言葉を聞き、よく見、触れて、音やにおいも感じ描くと「ぼくの廊下」の絵ができました。

『おかあちゃんがつくったる』原画 2012年 講談社

長谷川さんは先生の教えを刻み、自らの心が動き出す瞬間を描き続けています。一方、『いいからいいから』に登場するおじいちゃんは、長谷川さんの理想像です。異世界のお客様が突如家にやって来て、さまざまな騒動を起こします。しかし

じいちゃんは「いいから、いいから」と共に楽しみ、お風呂まで勧めます。次第にお客様はおじいちゃんに感

『いいからいいから 5』原画 2018年 絵本館



謝します。どんな人もありのままを受け入れたら、相手の心も動かし、笑いと平和に包まれる—。おじいちゃんは、長谷川さんが絵本に込めてきた思い、そのものです。

本展は、絵本原画を中心とする約220点により、創作活動の全てを紹介します。長谷川さんの描く濃淡に富んだ色彩や味わいのある筆あとは、ユーモアや温かさに溢れた絵本の世界を一層豊かなものとしています。絵本と原画の魅力はぜひ会場で。暑さを乗り越え、とびだせ!長谷川義史展へ。

(学芸グループ長 河内えり子)



ミュージアムショップ

とびだせ!長谷川義史展(7/1-8/27)



*写真はイメージです。実際とは異なる場合があります。※会期の途中欠品、または再入荷にお時間を要する場合があります。

命宿る ORIGAMI
—吉澤章 創作折り紙の世界
(9/2-10/22)



価格はすべて税込表示です

隆泉

Summer 2023

vol. 77

「隆泉」2023年夏号

通巻77号(年4回発行)
2023年7月1日発行
編集・発行/公益財團法人 佐野美術館
〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43
TEL 055-975-7278
FAX 055-973-1790
<https://www.sanobi.or.jp/>
デザイン/きむら工房
印刷/松本印刷株式会社

《抽象
枯野の子狐》

一枚の紙から森羅万象を生み出す



命宿る ORIGAMI
—吉澤章 創作折り紙の世界
(9/2-10/22)



《リス》

大 地を踏みしめて歩くゾウ。羽を広げ威嚇するカマキリ。前へ

と足をくねらせて進むタコ。一枚の紙から生み出された躍動感溢れる作品の数々は、折り紙の概念を広げ、世界中に折り紙ファンを生み出しました。

吉澤章(1911-2005)は折り紙を造形美術として確立させ、その地位の向上と普及に生涯を捧げた創作折り紙作家です。その作品は海外でも高く評価され、日本の折り紙を「ORIGAMI」として世界へ広めました。佐野美術館は近年新たな作品の寄贈を受け、4年ぶり5回目となる吉澤章創作折り紙展を開催いたします。

吉澤の作品は、どんな複雑な形でもハサミやのりは使わず、一枚の紙のみで折りあげられています。虫や動物など対象物をよく観察し、時には解剖学や進化の仕組みにまで立ち入って折り方を考えます。

そうしてできた作品は大変精巧なものとなり、完成までに何年もかかるものもありました。

一方、線や面を簡素化し、心象を現した抽象的な作品も手がけます。少ない折り線ながら一瞬のリアルを捉え、時には具象作品よりも多くのことを語りかけてきます。ものの本質を見極め、その構造を折り紙で形作る。出来上がる作品はまるで生きているかのようであり、「神宿る手」を持つと人々に称えられました。吉澤の創作は広がりをみせ、作品のテーマは動植物のほかにも、人々の営みや年中行事、昔話、仮面、人の感情など多岐にわたります。

この世のすべてのものと心を通わせ、森羅万象を折り紙で表現した吉澤章。懐かしさや温かさ、そして高い精神性を感じさせる命宿る折り紙の世界を、どうぞご覧ください。

(学芸グループ 山本貴子)

本展の掲載作品はすべて佐野美術館蔵



《かまきり》

佐野美術館